

倶多楽火山

○化学組成から推定された深部熱水系の地化学温度

深部熱水系の地化学温度は220°C前後で推移した。昨年の同時期に較べて変動が大きいものの、2008年5月から始まる緩やかな温度低下傾向の延長線上にあるように見える。また、推定温度の大きな変動は噴騰活動が始まる2ヶ月前の5月頃から始まっており、サンプリングの問題とも考えられるが、注目される。

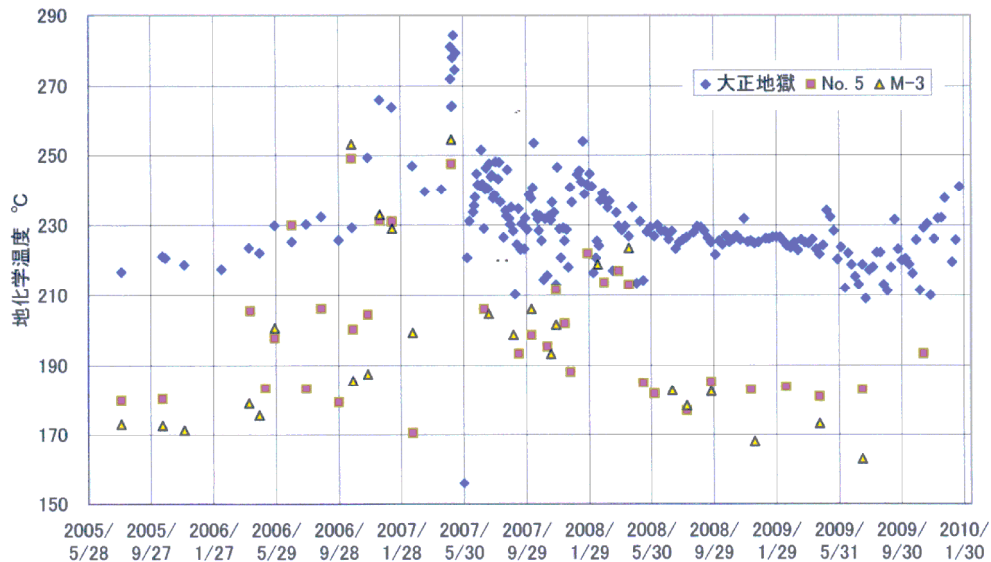


図1. 大正地獄の熱水化学組成から推定される深部熱水温度の時間変化

○大正地獄の熱水温度と休止期間

2009年7月～9月の激しい噴騰活動の終息後、休止期間は、一旦、2日前後と短くなったが、10月から再び4日以上休止期間を持つ噴騰活動が多くなった。この傾向は現在も続き、いまままでと同様に、休止期間が長いと噴騰は激しい。

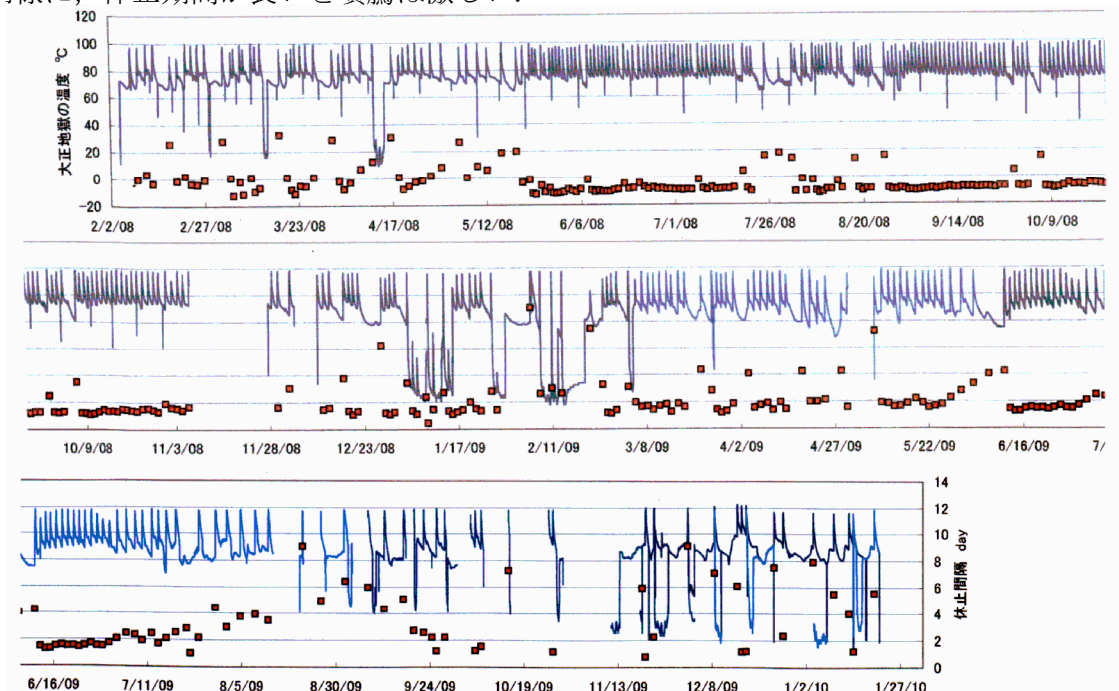


図2. 大正地獄の熱水温度と休止期間の時間変化

(安孫子・大島)

倶多楽火山